

第2回 坂出市まちづくり基本構想審議会

■日時・場所

日時： 令和7年10月30日（木） 14:00～16:00

場所： 坂出市役所本庁舎本館2階大会議室

■次第

1. 開会

2. 審議

議題（1）第2次坂出市まちづくり基本構想（素案）について

3. その他

4. 閉会

■資料

次第

資料1： 第2次坂出市まちづくり基本構想（素案）

参考資料1： アンケート調査結果の追加分析について

参考資料2： 基本構想概要版の参考事例

■会議風景



■参加者

*敬称略・順不同

属性	氏名	所属	出席
会長	古川 尚幸	香川大学経済学部 教授	○
副会長	三谷 朋幹	坂出商工会議所 会頭	○
委員	入江 正憲	坂出市連合自治会 会長	×
委員	淡河 洋一	一般社団法人坂出市医師会 会長	○
委員	中橋 恵美子	認定NPO法人わははネット 理事長	○
委員	高木 万佐子	社会福祉法人坂出市社会福祉協議会 総務福祉係長	○
委員	信濃 優子	株式会社百十四銀行坂出支店 次長	○
委員	林 陽子	坂出市教育委員会 教育委員	○
委員	松浦 由紀	株式会社四国新聞社 地方部長	○
委員	岡田 真	坂出市PTA連絡協議会 会長	×
委員	高木 政博	坂出市保育所等保護者会連合会 会長	○
委員	山本 凌平	令和7年坂出市はたちの集い地区代表スタッフ会議 地区代表	○
委員	小泉 真理	認定新規就農者	○
委員	竹内 賢寛	坂出市地域おこし協力隊	○
委員	坂本 佳奈	坂出かけはし大使	○
委員	山元 徹	市民公募委員	○
委員	瀬戸 光浩	市民公募委員	○

■記録

1. 開会

2. 審議

議題（1）第2次坂出市まちづくり基本構想（素案）について

－事務局より参考資料及び資料1について説明（記録省略）－

【本編について】

会長	説明に対して、質問や意見をお願いする。
委員	仕事の関係で、20年生活していた大阪から25年前に坂出に移ってきた。坂出に住みだした理由は、四国の入り口となるまちだからである。大阪で暮らしていたので良くわかるが、坂出市はこのことをまったくアピールしていないが、なぜなのか。まちづくりに対する最大の課題は人口増加であると考えている。官民一体となって、優良な住宅開発を進めるべきである。また、坂出から、始発に乗れば8時前には大阪に着いて仕事ができる。最近、三豊市がJALとコラボして、平日は東京で仕事をして、週末に三豊市に帰る取り組みを行っている。まさに、坂出市は、関西圏まで拡大して考えると、多くの就職先があって、そこで働く人達も、海が近く住環境がすばらしい。坂出に住もうではないかとなるはずである。 しかし、これらをアピールしていないので、まったく分かってもらえていない。私の友人に坂出はどのようなイメージかと聞くと、塩田としか返ってこないので、私は、「四国の玄関は坂出なのだ」と説明している。妻が多度津の出身だが、多度津に住まない理由は、少し遠いからであり、高松から坂出は20分かかるなど、坂出は非常に便利な位置にある。これをもっと若い世代やZ世代に発信して、彼らから友達に、「坂出に住めば、家が買える」と伝えてもらいたい。私の友人は東京の丸の内に努めているが、朝4時に起きて鎌倉から通勤しており、そのような人が多くいる。坂出市の四国における立地の良さをもっとアピールすべきなので、考えて頂きたい。
事務局	市民ワークショップでも同様の意見があった。坂出のPRとして、デジタルやアナログ等、例えば、SNSなど様々な広報を行ってきたが、なかなか伝わらないのが現実である。今後は新たな発信方法を考えたい。東京の方で、300名ほどの若いコミュニティとも繋がりができるので、積極的に交流を持ちながら、PRを行ってていきたい。
会長	基本構想の中に「二地域居住」の記載があるか。
事務局	P7の1-1③とP44(3)移住・定住の促進の④に記載している。
会長	どちらも「現状として二地域居住に関心が高まっている」との現状の記述であり、市としてこれから積極的に何かをやっていくとしているのか。基本構想内に具体的な事項が記載できるくらいの検討がなされているのか。
事務局	ここ数年国でも、都市部と地域を繋げることで、地域の人口減少をカバーし、地

		域を活性化する考え方のもとで二地域居住がスタートしている。私どもの方でも、社会全体の流れの中で、移住・定住とともに二地域居住に取り組まなければならないと認識しており、今は予算編成時期にあたるので具体化を検討している。現時点では、具体策を提示することは難しいが、今まさに二地域居住に取り組めるかどうかを検討しているところである。
会 長		<p>直近でも話題になっており、国ではもう少し検討が進んでいる。先んじてという訳ではないが、坂出市としても検討しているのであれば、具体的なところまで書く必要はないが、二地域居住を方針として強めに出した方が良いのではないか。</p> <p>委員にも移住し定住された方がおられるが、実際には、移住・定住は難しいと思う。日本全体として人口が減るなかで、どこかで移住が増えれば、どこかで人口が減ることになる。移住・定住促進は中々難しい面があるので、それを残しつつも、二地域居住は取り合いにならないで、その事を書いてもよいのではないかと思う。</p>
委 員		補足する。三豊市はJALとコラボしたが、坂出市はJR四国とコラボして、瀬戸大橋線マリンライナーの定期代を補助するなどをアピールすることも、1つの投げかけ方だと思う。書いているだけでは意味をもたないので、是非このようなことを考えて頂きたい。
会 長		意見を頂いたが、この審議会は大きな方針を決める場なので、別の場で二地域居住に関する具体的な事を詰めて頂きたい。
委 員		英語表記が多いが、もう少し日本語的な表記で書いてはどうか。例えばウェルビーアイングのまちづくりなど、わかる方がいるのか、もう少しわかりやすくかけないのか。
事 務 局		ウェルビーアイング、DX、GXなど英語表記の用語は、用語集で説明するように考えている。表記の仕方については検討したい。
委 員		<p>ページのどこかに日本語で注釈をいれるべきではないか。ゼロカーボンシティもあるが、その本質が伝わるのか。よりわかりやすくしてほしい。</p> <p>移住・定住の促進に関係して、昨日、環境に関する審議の場に参加した際に、課題として一部の委員から話があったが、市内には外国人が結構住んでいるが、地域のルールを守らないとのことである。その点も記述した方が良いのではないか。外国人定住者を指導することやルールを守らせる等を具体的に記述してはどうか。外国人と指定してよいと思う。</p>
事 務 局		P33の(2)多文化共生の推進の項目で、外国人と共生をするための施策を記述している。昨今、外国人と住民とのトラブルが問題になっていることは十分承知しているが、外国人と住民が一緒に住んでいくとの立場での施策を考えている。日本で居住する上では、日本のルールに乗っ取って生活してもらうことが前提となるので、それを記述するより、むしろ啓発を粘り強く行っていくことを行政として考えている。基本構想内に記載しているように、「共生」を進めていくとの考え方を記述したい。

委 員	わかりやすさに関して、P31 では、問題点について可視化されて非常にわかりやすいが、個別計画は、ぱっと見て、実際に何をするのかがわかりづらい。絵などを加えて、わかりやすくした方が良いのではないか。
事 務 局	個別計画は、市民が目にすることが少ないとと思うが、わかりやすさは、概要版で工夫していきたい。
会 長	概要版のみならず、本編でも可能な限りわかりやすくすることを検討し、必要に応じて注釈や用語集を付けてほしい。概要版に関しては、第1回の会議でも申したが、極端に言うと小学生、中学生でも理解できる工夫をしてほしい。
委 員	<p>前回計画から記載されている、共に働く意味での「共働」、P32 の本文中にある協力して働く意味の「協働」、P2、P9 にある共に創造する意味の「共創」が記載されている。これらは、あまり使わない文字での共働、共創であり、英語でそれぞれ collaboration、cocreation の意味との事であるが、わかりづらいので、キャッチーな言葉より意味が分かる言葉を使った方が引っかからずに読みやすいと思う。</p> <p>P6 から P9 のまちづくりを取り巻く状況は、ざっと読むと、坂出を取り巻く状況なのか、日本全国を取り巻く状況なのが見えてこない。P8 のカーボンニュートラルのところに、「本市においてもゼロカーボンシティを宣言し」とあるところのみ坂出市の事と思うが、それ以外は坂出市なのか香川県なのか全国なのかが汲み取れないので、我がごととして読み込めない。</p> <p>これからの中10年間の計画なので、例えば、駅前再開発は出来ているし、人口土地は、今でも多くの問題があり、10 年後には人口土地をどうするかの課題に直面する。坂出らしい踏み込んだ課題を具体的に書く必要はないか。病院が多いことを特徴として取り組むことはできないのか。また、高校が多いことを魅力の一つに上げているが、10 年後を試算すると高校生の人数は 75%以下に減少し、高校の統廃合の検討が必要となると思うので、そのようにならぬために何ができるのかを考えていかなくてはならない。この P6~9 は、あまりに全国的な内容になっているので、もう少し坂出らしさを出して頂きたい。</p> <p>P26 の坂出市が目指すまちの姿は、非常にキラキラしていると感じた。P26 の最初に坂出市の歴史として、塩の町として栄えてと始まるが、大きな出来事としては、瀬戸大橋の開通し、非常に期待にあふれ、多くの人が訪れていた時期もあるが、それが活かしきれずに今がある。この事をもう少し歴史の中に、踏み込んで書いても良いのではないか。また、下段の今回の策定に向けたワークショップ云々のところに関して「まちが変わり、動き出した瞬間でした」とあるが、大袈裟ではないか。ワークショップへの参加人数もあって、参加した一部の方が感じたことが、きっかけであったかもしれないが、まち全体の共感を得て動き出したとまで言い切れないのではないか。夢見がちな綺麗な文章となっており、ポジティブに書くことは大事であるが、もう少し泥臭い文章で「ここで踏みとどまらないと大変なことになるので頑張ろう」との表現の方が良いと思う。</p>
事 務 局	共創等の言葉については、ウェルビーイングなどもあるので、わかりやすい表現を検討したい。

	<p>P6～9は、全国のことや坂出市のこと書いていたりするので、見直したい。</p> <p>P26は、我々の思いを素直に書いたもので、少し大袈裟かもしれないが、我々が感じたこととして聞いて頂ければと思う。歴史の瀬戸大橋の件は、坂出にとって大きな出来事なので、加えさせて頂く。</p> <p>P26に記述している「まちが変わり、動き出した瞬間でした」これは大袈裟ではないかとの事なので、課の中で検討する。</p>
事務局	<p>ご指摘のまちづくりを取り巻く状況に、坂出市個別の状況を加えた方がよいとの件、P24のまちづくりの重点課題に、現状を踏まえて今後このような取り組みが必要であると示しているので、ここに現状をどのように書き込むかを工夫したい。</p> <p>P6～9の間に差し込むのが良いのか、P24に現状把握を加えた方が良いのかを事務局で検討させて頂きたい。</p>
会長	<p>P6～9は、6つ目の項目で、突然、坂出が出てくるので難解になっているが、一般的な話をしているはず。1-1社会の潮流としているが、坂出市なのか一般的な話なのかのいずれなのかを整理して頂きたい。</p>
委員	<p>取り巻く状況については、坂出の状況がどうなのが大事だと思う。P26は、宣言的な面があり、確かに大袈裟なところはあるが、良く書いていると思った。普通、人口減少がどうとかお役所文学的な文章となるが、そのようには書かれていない。良く読むと、現状を率直に捉え、栄えていたまちの活気が失われているとか、その再生にむけて今頑張らなければならないとか、今の時代の職員（行政マン）の覚悟が読み取れ、他の市町の1ページ目より親しみがわく。50年後の市民や行政マンにも、この時代の職員が覚悟を持って書いたことが伝わると思う。私は坂出市民ではなく外の人間として、そのように読み取り、多少大袈裟なところはあるが、感銘を受けた。</p> <p>その後の具体的施策は、例えばコロナが起きればお金のかけ方が変わったり、総花的になったり、その時々で変わるものだと思う。先ほどの、委員が言っていた件では、どのように坂出市を発信していくかの項目が非常に少ないことが問題ではないかと思う。二地域居住も含めて、坂出にある魅力をどのように発信していくか、その為には、何かきっかけになるものが必要であり、人に来てもらうにも交流人口や移住者を増やすにも、何らかの魅力を増やさなければならない。坂出に住んで、兵庫県や大阪まで働きにいけるなどの魅力を今一度再構築して、発信する必要がある。さらに観光においても、今のままでは、課題が多い。三豊が今ようになったのは、秩父ヶ浜がヒットしたからであり、それもこの10年ぐらいの話で、坂出市にもそうした外に発信できる魅力があると思う。</p> <p>提案の機会がないので、この場を借りて提案したい。坂出市の古代史の魅力をもっと訴求すべきである。崇徳上皇や菅原道真と、日本三大怨霊の内の二人が住んでいた所は、京都と坂出にしかない。万葉の魅力もそうだが、坂出市に残る古代史を再整理して発信すれば、凄い観光資源となると思う。</p>
会長	基本構想には書きにくいが、頂いた提案は、担当課に伝えてほしい。
委員	外国人について、農業従事者として一言いっておきたい。私の周りの外国人は、

	良い人が多く、共生していくと思っている。確かに、この10年で外国人がすごく増えているので、それらがわからない住民の方が多くおられ、不安なのだと思う。坂出市でも、交流ができるような説明を入れた方が良いのではないか。
会長	この意見も基本構想というよりも、具体的な方法、施策として考えて頂きたいということでお願いする。
委員	私は、4回あるワークショップの内3回に参加した。P22～23に報告があり、P26に思いのこもった記載がある。高校生も5、6名参加していた。私は、すでに定年退職しており、将来よりも今をどうするかということで、P23(2)にある「天国に近いまち」の発表をしたチームに参加していた。病院が充実して、死ぬ間際にも、歴史の有るまちでゆっくり死んで行ける、そんなイメージを発表した。一方で、若い人達は「坂出の未来には期待しかない」と言っており、「芸術大学を作ろう」など先を見越した発展的な意見がでていた熱のこもった会議であり、良かったと思っている。それが、今後の坂出市の目指す方向性に取り入れられており、非常に良いことだと感じた。
会長	今回のワークショップもそうだが、複合施設のワークショップでも高校生や大学生が参加し、その意見を取り入れたところもあるとのことで、この中にも、ヒントになるものがあると思っており、期待している。
委員	良い文章が書かれており、読んでいてワクワクした。私も移住者の1人だが、沙弥島のナカンダ浜など坂出に誇りの場所がある。これから基本方針を取りまとめていく上でテキストが多くなると思うが、坂出市民が坂出らしいと感じるビジュアル的なものが一緒に入ってくると、見ただけで坂出の今後10年を作っていくとするワクワク感が伝わる。シビックプライド的なビジュアルも必要だと思う。
事務局	P27、P29にイラスト追加予定としている。それ以外にも、基本的には文面の審議となるが、見易さに関して、イラストや写真、表紙デザインに関しても見て頂けるように検討・準備したい。
委員	私どもが、地域福祉の活動計画を立てた時に行った聞き取り調査結果と坂出市に対する期待や課題が重なっている部分が多くあると感じた。その中でも、外国人の方との共生問題に関して、住民は身近な問題と感じている。それらに関する話し合いでは、住民同士が、教えていかなければならぬとの話があった。市役所としても、教えることを進められるであろうが、地域住民との近い距離にある社協が、ゴミの管理など自治会と協力して進めていきたい。共生は、一緒に住めばよいではなく、価値観のすり合わせを行い、お互いが気持ちよく暮らせることが大事である。繋がるために、心の中でいやだなと思うことを、一つ一つ解消する取り組みを進める必要があると感じている。
委員	P17の、坂出市の10年後の理想の姿の第2位に、子育てしやすい事が書かれており、P22のワークショップでは、まちの気になると点として、健康福祉の項目として、子育てのまちとしてのイメージがないと書かれている。私は、子育ての経験はないが、姉が1月に出産し坂出市にもどってきた。身近な事として、支援センターが多く、支援センターに行き母親など色々な方と話をするのが楽しく、毎日どこ

に行こうかと選ぶ場がたくさんあるとのことだった。坂出は子育てしやすい場とのイメージが、身近な声としてあったが、ワークショップの気になる点と異なっており、子育てしている方々はどう思っているのか知りたい。また、支援センターは多いが、他の市ではベビーバスなどの無料貸し出しがあるが、坂出市はそのようなものがないので、それらがあればもっと子育てしやすいのではないかと感じた。

会長　この意見も基本構想に記載するというよりも、具体的な内容なので、政策課から関係課に伝えていただき、是非取り組んでいってほしい。

－事務局より参考資料2について説明（記録省略）－

【概要版について】

会長	提案があった内容に関してどのような方向性が良いかなどの意見をお願いする。
委員	当然これらを印刷することを考えていると思うが、映像も全部織り込んだCDを作ることを提案する。これらを坂出市の高校生に配布してほしい。印刷物はなかなか読まれない。CDであればPCでダウンロードできるし、スマホでも見られるのでこのようなものを考えて頂きたい。
会長	CDでなくても、PDFなどの配布を考えてもらいたい。高校はわからないが、小中学校であれば、保護者に一斉に配信できるシステムもあるのではないか。色々な方に見てもらうための手段の一つとしてCDをとの提案だと思うので、PDFなど様々な手段を考えて頂きたいが、PDFもWeb上に置いておくだけでは見てもらえないで、紙も必要かと思う。データと紙の両方でお願いしたい。
事務局	配布は、これから検討だが、紙はもちろん、ホームページからPDFをダウンロードできるようにすることになると思う。計画は作って終わりではなく、皆様に知ってもらうのが大事だと考えているので、様々な媒体を用いることを工夫したい。
委員	発信力が大事であり、発信方法としては、YouTubeやインスタグラムなどを活用して、1人でも多くの方に目に見てもらうことが本当に大事だと思うので、その点に注力して頂きたい。
会長	紙媒体を折角作るので、学校の協力が必要だが、担当課が学校に出向き、出前授業を行うなど、色々な協力を考えて頂きたい。
副会長	概要版を見て、未来、将来を展望していることが前に出ていると感じる。今回の目指す姿の「市民が輝き続ける」とあるが、現在の市民の話をしているように受け取っている。これから生まれる子ども達や外国の方や、移住交流含めて外からくる方に向けて、先ほどアピール力と言っていたように、そのような点がもう少し入った方が良いと思う。何故なら、概要版を市外の人が見て、坂出市は良いと思えないと概要版の効果はないと思うので、外部視点が非常に大切と思った。 先週、島根の経済団体の会で持続可能なまちづくりとして、隠岐や石見銀山の話があり、子どもが増え、また合宿に来るなど交流人口も増やしたとの話があった。町の規模は数千人規模の町で、決して恵まれている訳ではない。坂出市は、先ほど恵まれているとの話があったが、恵まれすぎているが故に、危機意識が薄いのでは

	ないかと感じている。
	これから 10 年間の計画であれば、子どもがどんどん減り、逆転させなければ次の 10 年がなりたたない可能性があるなどの 10 年間の変化を入れる必要がある。この春、高松駅にアリーナや文理大ができたので、この 10 年間で高松市と坂出市の移動を上手く活かせば人口が増える可能性があるし、一昨年にモスクができ、ムスリムの方がこられて、外国人もこれまで以上に増えている。私は松山に住んでいて、農業関係者が以前から来ているので、すでに慣れているが、10 年たったときに必ず見直すのであれば、もう少し今の問題点と今後 10 年間の話は具体化して入れる方が良い。今の問題や今坂出に住んでいる人のことだけではなく、未来の話を織り込める概要版となることが良いと思う。本編では、色々なことをかかなければならないのでまとまりにくくなるが、視点として未来に向けた点を入れた方が良い。子育てに向けても、住めば良いまちで満足するが、外の人にはあまり良いまちと思えないで、交流はできるが住むまでに至らないのであれば、住むことの施策を増やしていく必要がある。先ほどの島根の話では、お試し居住のように、少しでも長い期間住んでもらったり、通ってもらったりを進めており、そうなると二地域居住の話ももう少し前にだすべきだと思う。
会長	本編に書いていないことを概要版で出すと、「全然違う」となりかねない。文章を書き加えることができるのであれば、今住んでいる人が輝くだけではなく、これから生まれる人や坂出市に来る人など、もう少し広い対象の人たちが輝く何かを本編に書き加え、それを受けて、未来に向けての概要版となるようにして頂きたい。
事務局	ご指摘の点は、例えば、目指すべき将来像の文言の中に、生まれてくる世代など未来についてもう少し言及した書き方ということで良いか。
会長	書き加えられるところが、それぞれの箇所にあるので、可能なところで書き加えて頂きたい。その上で、概要版もその点を意識して作成願う。
委員	10 年後の人口減少はここまで抑えたいとか、産業構造はこの辺りまで持っていきたいとの目標値はあるか。昨年、小豆島町の同様の会議に参加していた。小豆島町は、危機意識が強く、10 年後に人口がこれくらい減ればこうする、もっと減る可能性も高いのでその場合にはこうすると、非常に必死度の高い計画を練っていた。坂出市は、10 年後の人口はこの辺りに踏みどまりたいなどの目標値はあるのか。
事務局	今年 3 月に出した人口ビジョンの中で、2060 年に 4 万人の目標を設けている。これは、何も行わなければ、30,348 人になるとの社人研の人口推計に対して、出生率向上など社会増の様々な取組を行うことで 4 万人との目標を設定した。
委員	小豆島町では、人口目標があって、具体的に年間移住者はこれくらいを維持するとか、雇用人口はこれくらいにするとかがあった。具体的な目標をたてると、人口目標が見えて、わかりやすいと思う。
会長	P31 に、「関連する主な個別計画」が項目毎に書かれているが、今指摘のあった点が書かれた個別計画があるか。

事務局	今年3月に策定したまち・ひと・しごと創生総合戦略（第3期）に個別のKPIなどを、それぞれの分野で出している。
会長	その総合戦略で目標を示しており、この会議は上位の基本構想に当たるため、より大きな方針を書いているとのことである。
委員	概要版についてだが、先ほどあったように子ども達に発信していく事が大切だと思う。坂出市は教育環境が良く、子ども達は学ぶ環境にいる。私は高松に住んでおり、私の子どもは、4年生で高松市を学び、5年生で香川県を学び、6年生でさらに広い視野で色々なことを段階的に学んでおり、家で学んだことや訪れた場所などを話してくれる。このように、将来を支える子ども達が、学ぶ環境にいるので、坂出市の良さや目指す姿を示し「坂出市は良くなつて行くのだ」との認識を植え付ける教育が非常に大切なことである。概要版は、小学生ではわかりづらいのではないかとの意見があったが、小学生がこれを見ると坂出市の良いことが思い浮かび、そのような共通認識が持てるような概要版にして頂きたい。
会長	今の意見を参考にして、概要版の作成を進めて頂きたい。坂出市では、小中学生に坂出市について勉強する時間があるのか。
委員	私は、坂出市のすべての小中学校を訪問している。各小学校で全然色合いが違う。坂出市内と川東である林田、松山地区とはまったく違うし、林田と松山地区でも異なる。小学校の間に、まちの良いところを学ぶ。府中であれば史跡について、林田では塩田のこと、松山地区ではみかんや三金時のこと、坂出市内であれば鎌田醤油のことを学ぶ。地域の特徴を、小学生の間にきちんと学んでいる。中学生になると、白峰中学校では、昨年の10月か11月に瀬戸大橋の上に登らせてもらった。坂出市の各企業が教育面で色々教えたいと協力してくれている。きちんとまちのよさを小中学校の間で学んでいるので、それを活かしてほしい。
	倉敷市の概要版では、地区毎の魅力を書いている点が良いと思った。坂出市としてざっくりくるのではなく、地区毎の良い点を見せると坂出市の魅力が伝わると思う。
	二地域居住に関しては、私の実家は京都にあり、両親が年老いても日帰りできる。京都は、ビジネスとしても同じように日帰り圏内が成り立つと思うので、その点も是非発信して頂きたい。
委員	概要版に関する資料に関して、P1は大人用で、P2は子ども・学生用なのか。大垣市、倉敷市、印西市の事例は、学生版とある。P1は、本編概要版とあり大人用だと思う。であれば、坂出市でも、子ども・学生用は、委員が言わされたように地区に捕らわれず、坂出市の良いところの写真をメインにして作成し、大人用は基本構想に基づいたものにするなどの2本立てにしてもよいのではないか。
事務局	今回、1枚目は、一般的な概要版を整理し、2枚目に色々な例として、学生版とさらに短い子ども版を示し、様々なパターンを見て頂くために整理した。最終的に坂出市として概要版を作るとなると、1つの形として作ることになるので、できるだけ、子どもでも大人でも見てわかりやすいものとして、先ほど頂いた地域毎の特

	色や魅力なども織りませつつ、必要な部分を示した概要版となると思うので、よろしく願いたい。
会長	大人向けと子ども向けを混ぜて作ると、結局誰向けかわからなくなる可能性があるので、思い切って子ども向けに振ってもよいのではないか。第一回の会議で、これらの課題もあることから、子どももわかる概要版にしてほしいと言った。事務局は、触れなかったが、予算もあり2つ作るのは難しいのであろうから、1つとするなら子ども向けに振っても良いと考えている。皆さんの意見は如何か。
委員	参考で2つ出しているのは、2つ作るつもりではないのか。
会長	私が子どもでも分かるようにと言ったので、サンプルとして子ども・学生用を示したのではないか。
事務局	基本的には1つと考えていた。今回、大人版、学生版、子ども版と色々なパターンを示し、作る上でどれが良いかの意見を頂きたいと考えた。費用面や時間的な面もあり2つ作るのは厳しいと思う。原則1つとし、先ほど意見があった、だれが見てもわかりやすいデザインや文言を使うなど工夫をして作りたい。
委員	2ページぐらいのデジタルデータ資料を作り、出張授業等に使うことはできないのか。
事務局	色々な可能性があるので、今後検討させて頂きたい。
会長	是非、可能であれば提案の方向で検討願いたい。印刷は、学校ができるかもしれない。
委員	今学校では、全員タブレットを持っているので、印刷は必要ない。
会長	P26～27は、思いのほか好評であった。私は、思いが溢れすぎているので、不適切ではないかと事前の説明で申したのだが、皆さんはポジティブに受け取られているようで、良かった。 次回、最終案が提出されるが最終の審議会なので大きな変更はできない。追加があれば、今回が最後の機会となるのか。
事務局	次回は、本日の意見を反映したものを示す予定である。会議は、11月の下旬に開催予定なので、多少の変更は可能であるが、方向性は変えられないタイミングである。
委員	概要版は、8ページで、言いたい事が伝わるのか。次回で決まることだが、市として、ここだけは外せないというのがあるのか。10年後を見据えてこれから坂出に住む方も対象にするようにとの意見などがあったが、次回ほぼ完成の形になるとのことなので、伝えたい部分を教えて頂きたい。私としては、3章の将来像は絶対にいれるべきだが、第1章の基本構想とはといったことは不要と考える。そのようなことを教えて頂きたい。
事務局	概要版は、第3章の10年後のあるべきまちの姿を長い言葉を使わずに、デザイン等を工夫して伝わるようにしたい。
委員	そうであれば、相當に固まっているということで理解した。

会長	次回の第3回会議では、本編を修正した最終版のみの提示なのか、それとも概要版も出されるのか。
事務局	次回、概要版は、まちの魅力や10年後の流れを入れるなど、本日頂いた意見を基にしてページ数や内容などの構成を示すことになります。イラストや写真を入れた詳細なものを準備することは難しい。従い、内容（構成）に関して確認を頂き、詳細は事務局に任せて頂くことになる。
会長	このような状況なので、今回概要版を示したのは、ページ数やどんなデザインで誰に向けて発信するのかなどの意見を得て、次回に反映するためだと思うが、次回は概要版であっても追加は難しいのか。
事務局	概要版は、構成の後にイラストや具体的な内容を作成していく。本編があっての概要版となるので、次回の意見は反映することができる。
会長	次回は、本編の最終版が提出される。概要版は、本日も意見を頂いたが、次回は概要版の構成（概要）が提示され、まだ意見が反映できるとのことである。
委員	先ほど、学生・子ども用は印刷費用が不要とのことであったので、是非PDF等で作成し、市のホームページに掲載し、学校の授業に取り入れてもらえるようにして頂きたい。
会長	私もぜひ行って頂きたいと思う。他市町でも行っていると思うので、坂出市でも、教育委員会などの協力を得て検討を進めて頂きたい。 本編に対する意見は、まだメール等で頂くことが可能なので、気づき等があれば事務局に知らせて頂きたい。

3. その他

事務局	11月の広報紙にも掲載した通り、坂出市でも自動運転バスの実証実験を11月15日から12月3日の間、坂出駅北口を起終点としマルナカの坂出店を折り返す1周20分の循環ルートを、平日7便、土日祝日8便を無料で運行するので、ご利用願いたい。今回は、レベル2の自動運転なので、運転手が乗車しており、危険な場面では運転手が対応できるように安全面も配慮している。
-----	--

4. 閉会

事務局	以上で、第2回坂出市まちづくり基本構想審議会を終了する。
-----	------------------------------

以上